

賀美郡

ヨリテ便宜ノ地ナレドヤ、モスレバ水溢ノ患アリ、マタ秩父那賀兩郡ニ接シタル邊ハ、水利不  
便ニシテ旱損ヲ免カレズト云、略○中郡中耕種等餘業、及風俗ノ異ナルコトナシ、

〔和名抄諸國郡郷考六〕賀美上河越記、加美郡といへるは、二十餘郡の北のはてにて、此郡より  
なん武藏の國と云ふ、武藏の國と云ふは、利根川にたぎりおちて、これ  
つけの境ひ川なる、

〔新編武藏風土記稿二百四十三〕總說

賀美郡ハ國ノ乾ノ方ニテ、上野ノ國界ニ當レリ、江戸ヨリ二十三里餘、倭名抄國郡ノ下ニ賀美ヲ  
訓ジテ上ト註ス、按那賀郡ト並ブトキハ、上中ノ義理ナルニヤ、他國ニモ賀美那賀ノ郡名ハ例多  
シ、○中略 上古ハ當國山道ニ屬シ、寶龜年中、改テ海道ニ屬セシカドモ、猶モトノ官道ハ廢セズシテ、  
山道兩路カ、リシ事、續紀ニ見ユ、當時郡中官道ニ係シ事ナルベシ、サレバ戰爭ノ世ニ、上野國ヨ  
リ打テ出テ、武藏野ニテ戰ヒ、或ハ五十子ニテ對陣シ、マタハ阿保原合戰ノ類、皆郡中ニ大道ノカ  
カリテ、此邊要地ナル故ナリ、中葉以來邊鄙ノ地トナリタレバ、土地變革モアルベケレド、今其傳  
ヲ失フ、今ノ地域東南ノミ地續キテ兒玉郡ニ隣リ、三方皆水流ヲ界トス、西ハ上野國ニテ神流川  
其界ヲ流ル、北モ同國ニテ烏川ヲ限リ、長ニ至リテ利根川ト合フ、此所ハ寛政中ニ變革シテ、今ノ  
如クナリシト云、郡ノ形大略南北へ長シ、其内坤ノ方兒玉郡界ニ至リテハ、地先尖タル如ク差出  
タリ、此郡界ヨリ長ノ方、上野國界利根川岸八町河原村マデ、長凡二里半、東西ノ徑リハ郡ノ中央  
廣キ處ニテ一里許、ソレヨリ南北へ次第ニ狭マリクレバ、里程齊シカラズ、御入國ノ後ハ、大抵御  
料所ニシテ、私領モ少ク交レリ、郡中平坦ノ地ニテ、田少ク島多シ、土性眞土ナリ、川ニ添テ屢水溢  
スル所ハ、變ジテ砂石混雜セシ所モアリ、スベテ此邊ハ水災多ク、東南ニ至テハ旱損ヲ患フト云、  
村民等耕種ヲ事トスルノミニテ餘業ナシ、

〔續日本後紀九〕承和七年十二月己巳、武藏國加美郡人散位正七位上勳七等檜前舍人直由加麻